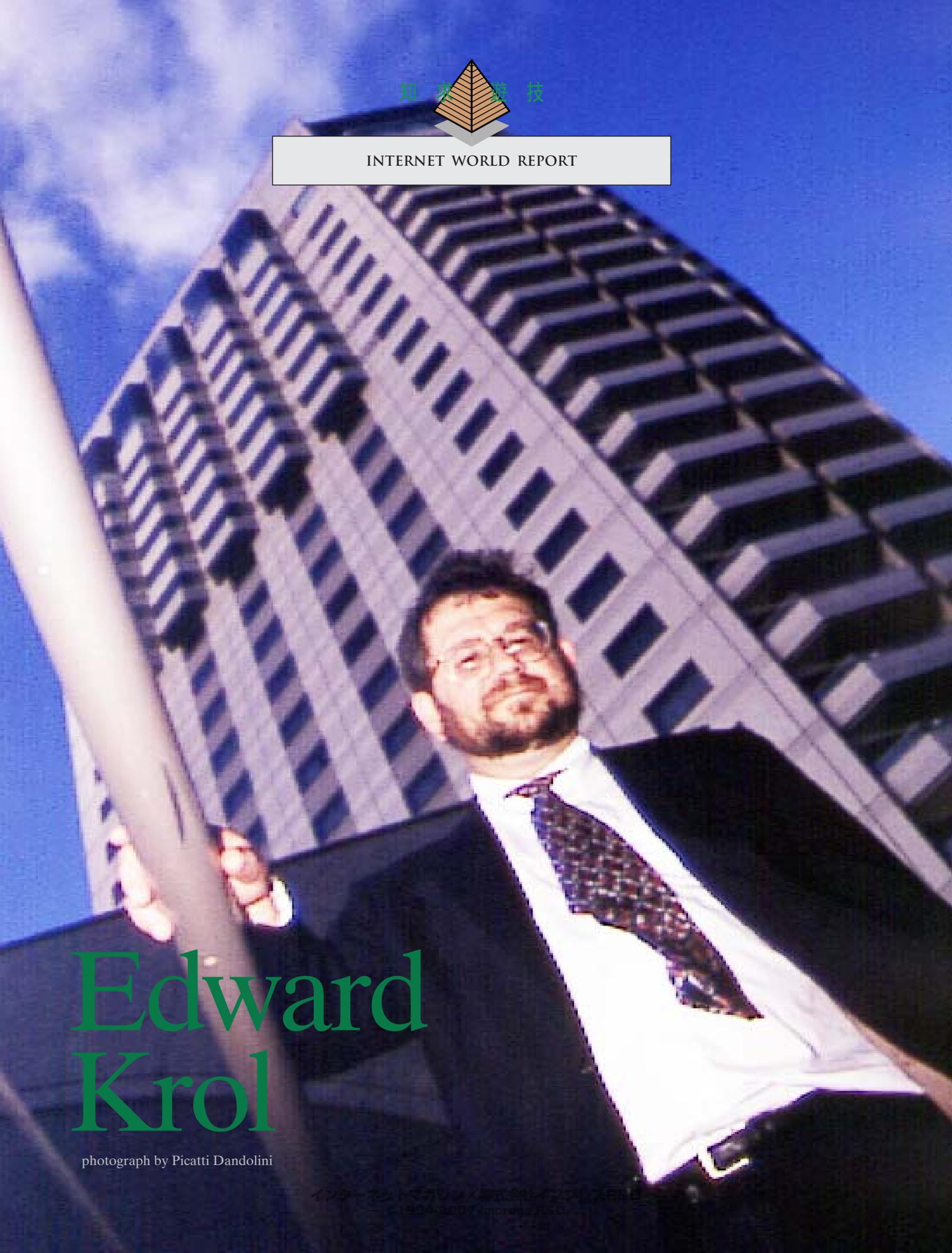


INTERNET WORLD REPORT



Edward Krol

photograph by Picatti Dandolini

Makuhari, Chiba, Japan, July 27, 1994

インターネットのバイブル 「THE WHOLE INTERNET」の 著者エドワード・クロールはINTEROP 94 の会場で日本のマスコミの型どおりの 取材にうんざりしていた。

インタビューア：今泉 洋

---日本ではいろいろインタビューを受けたそうですが、どういうことを聞かれましたか？

もっぱら商用ユースについてだね。みんな同じような.....。

---あなたの仕事について話していただけますか？

イリノイ大学の学術コンピュータセンターでアシスタントディレクターをやっている。学生数は3万人くらい。ネットワークを使った情報のデリバリーが担当分野だね。だからWWWのサーバとMosaicのサーバを扱って、古典的なドキュメントを学生がオンラインで扱えるようにしてるわけ。

最初に、NCSA(National Center for Supercomputing Applications)ができたころ、コンピュータセンターを利用できるようにスタッフを組織したんだ。そこでインターネットと接続することになったのが、インターネットとの最初の出会というわけだね。最初はNCSAにサーフネットをつなぐことをやってただけど、NSCAというのはとても競争が激しいところで、しばらくやってるうちに燃え尽きちゃって、方向転換して今の学術コンピュータセンターに移ったんだ。まあ、本を書くまではなかなか楽しく、気

楽にやってただけど、それからはいろいろ飛び回ってるっていうわけ。大学の仕事は60%くらいしかやってないから、それで日本にも来れたんだけど。

---こういう仕事につこうと前から考えてました？

いや.....その、3万冊売れる本を書いて大学のコンピュータセンターの責任者になるとか.....。実際、今こういう楽しいインターネット関係の仕事というのと、大学のコンピュータセンターに戻るっていうことの板挟みになってるんだ。まあ、9月には大学に戻ることになるけどね。

---米国でのインターネットの状況をどう考えてますか？

今インターネットで拡張しているのは商用の部分だね。高等教育分野での接続は終わってるからね。僕は子供たちの学校を接続しようとして.....幼稚園から小学校、中学校のレベルだけど.....そういうところはほとんど接続されてないし、つながってても使えるのは先生だけで、生徒が自由に使えるようになってないんだ。NSF ネットがなくなっていってるから、多くの学校向けの補助金がインターネットの接続に使われることになる。これまでのインターネットについていえ





ば、大学はほとんどお金を払ってない。だから今、予算をひねり出すのは大変だけど、どこかの基金でそれをまかなわなくちゃならない。それが今、みんなが憂慮している一番大きな問題だと思うね。その他には、ネットワークの中の見べきじゃないものから子供たちをどうやって遠ざけておくとか、ネットワーク上の窃盗とか、ハッカーのことを非常に心配してる人たちがいるとか、いろんな小さな問題があるけど.....。

---Mosaicとはどういうふうに関係したんですか？

Mosaicはイリノイ大学で書かれたんだけど、NCSA ネットの中にあっただ。今、ぼくはそこで働いてるんだけどね。だからMosaicについてはよく知ってるし、実際今の仕事はMosaicサーバを通じて大学のためにやってるわけだからね。Mosaicの開発については、開発担当者によく話したね。事前に長い時間かけて検討をやったんだけど、それからしばらく彼らを見かけなくなって、突然ゴージャスなMosaicが登場してきた。だから、彼らが何をやってるか、何をやりとげたいと思ってたかについては知ってたけど、結局、彼らが自分たちなりにやってることになるね。

Mosaicについては、まずスイスで開発されたWWWという基礎になる技術があって、次にNCSAがそれを情報の視覚化という方向に利用しようと思ったんだ。彼らは合理的に画像を送る方法を検討して、ジョー・ハーデンがソフトウェアの開発をやった。彼は非常に優秀な学生を2~3人雇って、彼らが結局最初のMosaicを書くんだけど、テスト版が上がってから、それをMacintoshだとかマイクロソフトのWindowsに移植したっていうわけさ。もう1つ、EUDORA(ユードラ)と非常に近いものもそこから出てくるね。スティーブ・ドナーが

Macintosh用に書いたんだけど、その時、彼は僕のところにいたんだ。

今のこういう連中は企業に雇われちゃってるね。スティーブはクアルコムに雇われたし、他のMosaicを開発した連中はMosaic Inc.だとかいう会社に行っちゃったしね。彼らはMosaicの商用版を開発してるんだと思うけど、それでNCSAは彼らの代わりに新しい人間を雇って、Mosaic関係の仕事が続けてる。主に教育方面の用途に向けた開発だけだね。

NCSAとしては、コマーシャル用途の開発を求められることについて若干気にして、まだ大学の一部なんだし、教育分野から切り離されるべきじゃないし、そういうことに時間を費やすべきじゃないと思ってる。だから、NCSAとしては商用化したい人にはお金を払ってってもらえばいいというふう考えたんだろうね。NCSAはまだエンサイクロペディア・ブリタニカをオンライン化するというようなことをやってるけど、それはそっこのほうが自分たちがやるべきことにピッタリくると考えたからなんだ。

---米国以外のインターネットの動きについて。

面白いことに、英国と日本は状況が非常に似てるね。インターネット・プロバイダーの数も少ないし、大きな電話会社があって、インターネットをどう扱ったものかと決めかねてるというところもよく似てる。今、英国ではI1Jのような会社が出てきて一方で、NTTにあたるBT(British Telecom)が「インターネットとは何か、どう扱うべきか、将来はどうなるか」というようなことを検討してる。ホームコンピュータの普及率が問題になってるところも同じだね。

それから、米国でインターネットが普及したのは地域内通話が無料だからという勘違いがあるようなんだけど、それは全然違う。たぶん20年くらい前の大都市

圏ではそういうこともあったけど、10年くらいかけて多くの都市で、そういう地域はどんどん狭くなってきたんだ。

英国で面白いのは、昼間はどんな時間でもダイヤルアップでインターネットにアクセスできるけど、6時を過ぎると突然話し中になってしまう。というのは、6時に電話料金のレートが変わるからなんだ。だから誰もがみんなプライベートな電話を使い始めるっていうわけ。

それから、英国も日本と同様、ポルノグラフィに非常に厳しい法律を持っているね。そういうものを排除しようというセックスについての議論はだいたい成功しないんだけど……。

……英国ではインターネットの登場によって英国のデータベース業界が米国からの侵略を受けるとか、被害を受けるとい話は出ていませんか？

そうでもないね。日本のほうがそういう反響は多いんじゃないかな。さっきのセッションでも、インターネットの商用化にからんで、日本は独自のCIX(キックス)が必要だとかという発言が多かったね。

欧州ではEU統合化の動きが活発だけど、ビジネスのほうは電子メディアみたいにはオープンにはなってない。メジャーなプロバイダーたちは国境を1ミリ超えるだけで電話料金が10倍にもなるってことを問題にしてたね。

……日本のインターネットの状況について、どう思いますか？

いろんなサービスプロバイダーがマーケットに入ってこようとしてるみたいだね。一緒にテーブルにいた高橋さんによると、少なくとも3つのショッピングサービスが1年以内に始まるみたいだし……でも全部がビジネスできるほどのマーケットはないだろう。だから、どれかは生き残るけど、駄目になるところもでるだ

ろうね。

それから内容に関して社会的な問題もあるんじゃないかな。NTTはインターネットにどう取り組むのか、はっきりしてないみたいけど、事態は急展開してる。インターネットをやってる人たちも、法的な問題にどう取り組むのかが分からないみたいだし……。

英国では、電子出版の動きが出てるんだけど、ほとんどのビジネスに17.5%のVAT(付加価値税)がかかるんだね。ところが紙の雑誌はそうじゃない。“England Journal of Electronics” だか何だったか、彼らは紙に印刷したものをWWWを使って……いや実際にはWWWじゃなくて専用のソフトウェアパッケージを使ってるんだけど、予約をすればそれを使ってオンラインでアクセスできるという形で提供することにしたんだけど、オンラインで読むと17.5%高くなるという状態になってる。つまり、印刷されたものじゃないから、その分税金がかかるっていうわけなんだけど、ヘンな話だよな。

……将来のインターネットについて。

今のところうまくいってると思うね。僕はインターネットを商用化しようとしてる人たちとうまくやってるし、こういう展開以外にないんじゃないかな。

日本の場合、人口密度が高いということがあるでしょ。米国の場合には1マイル四方に1人が2人しかいないということもある。そういう場所で電話会社にインターネットへの接続を頼むっていうのはホープレスなんだ。だから、ガソリンスタンドとか、そういうところにインターネットのコネクション・ポイントを置いておいて、そこでインターネットからホテルの予約を入れられるようにするとか……そういうことが今後の展開には重要になってくると思う。

次にどういうアプリケーションが出て

くるかは分からないけど、Mosaicが今年のベスト・アプリケーションだとしても、次のものがどういうものになるんだろうとみんな考えてるんじゃないかな。それにはちょっと時間がかかると思う。というのは、今でさえ、どうやってMosaicをうまく使うかっていうことがきちんと分かってないからね。ほとんどの人がMosaicをきちんと使いこなせるバンド幅の回線を持ってないし、Mosaicのリソースを作っている人たちも、手のこんだ良いリソースを作るべきか、それとも適当な時間内にダウンロードできるリソースを作るべきかっていう価値判断をしなきゃいけない。日本で起こってることもそうだけど、リソースとしては非常にいいけど、14.4Kbpsの回線じゃ意味がないというものも多いでしょ？ 時間がかかってイライラするよね。だから、Mosaicを使いこなすまでにいろいろと考えなきゃいけないことがある。もちろん、三年以内に誰もが家にISDNをつなぐようになれば、そんな問題はなくなるかも知れないけど。

技術の歴史を見ると、新しい技術っていうが出てくると、みんなどんなものにも使ってみようとする。プラスチックが最初に出てきたとき、なんでもプラスチックにしようということがあった。でも、そのうちに、これはプラスチックで、これは木で、これは金属で……という使い分けが行なわれるようになった。それと同じで、今のところ、どんなものにも……不適當なものに対してさえもMosaicを使ってみようという状態だけど、そのうちに、これはMosaicでいい、こいつは不向きだということが分かってくるんじゃないかな。そうなった時に、次にはどういうアプリケーションが出てくるべきかが分かるんじゃないかな。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp